

UPDATE!

2025年度よりデータサイエンス学部 3つのコースが誕生!

2025年より、**自身のめざす分野×AI・データ・プログラミング**の活用を集中して学べる3つのコースを開設!
1年目には実践と理論を繰り返しながら全分野に共通する情報学の基礎やプログラミングの技術を学び、**2年目からは自身の興味関心に沿ったコースを選択**。
情報学をステップアップしながら、ビジネス、医療、スポーツなど、将来活躍したい分野におけるデータサイエンスの学びを深めます。

コース選択のモデル

企業などでAIやデータを活用し、
事業活動を推進する人をめざすなら



ビジネス データサイエンスコース



情報技術が高度化し、予測が難しい社会においては、ビッグデータなどの様々なデータを処理、分析し、現代社会の様々な課題の解決策を提案できる力が求められています。
本コースでは、**AI・データに基づく分析、理解、活用力と、人に信頼される「人間力」とを兼ね備え、ビジネスを新たに生み出し、維持・発展させることができる人材の育成をめざします。**

関連する科目

- ◆ ビジネス基礎
- ◆ 事業機会とビジネスモデル
- ◆ サービス経営とデータサイエンス
- ◆ 情報と職業
- ◆ 情報検索
- ◆ 経営学入門
- ◆ 国際関係論
- ◆ 観光情報学
- ◆ テキスト解析論
- ◆ マーケティング入門
- ◆ 地球環境問題
- など

卒業後の進路(例)

ビジネスコンサルタント
製造業やサービス業でのデータ分析・活用部門
企業・地方自治体のDX担当 など!

AIやアプリ、ソフトウェア開発などを
通して社会課題を解決したいなら



先端情報戦略 コース



現代のさまざまな環境が急速にデジタル化・情報化している中で、多くの組織がますます大量かつ複雑なデータを抱え、そのデータを有効に活用するためのニーズが高まっています。
本コースでは、常に進化する**先端情報技術**をもとに**分析力を実践的に修得し、その分析結果をわかりやすく伝える能力を養成**。さまざまな企業活動に**戦略的な意思決定を支援する人材の育成**をめざします。

関連する科目

- ◆ 機械学習1・2
- ◆ 可視化情報学
- ◆ ビッグデータとクラウド
- ◆ モデリングとシミュレーション
- ◆ クラスタ分析とパターンマイニング
- ◆ 統計学2・3
- ◆ データベース1・2
- ◆ 人工知能1・2
- ◆ 時系列分析
- ◆ 回帰と分類
- ◆ データと数理2・3
- ◆ ソフトウェア工学基礎
- など

卒業後の進路(例)

ビジネスエンジニア、ITコンサルタント
データサイエンティスト、製品開発責任者、
ITスペシャリスト など!

データを駆使して人と社会を繋ぎ、
豊かな世の中を創造したいなら



スポーツ・健康 データサイエンスコース



スポーツの世界では、今日、アスリートのパフォーマンス向上やケガの予防、競技の戦略にデータが積極的に活用されています。また、心拍や睡眠のモニタリング、食事などのデータによって科学的に健康を管理し病気を未然に防ぐ時代になっています。
本コースでは、**アイトラッカーやモーションセンサーなど最新のセンシングと可視化でトレーニングの最適化やチーム力の分析、心身の状態推定などの技術を学修しスポーツと健康の分野でデータやAIを使い革新を起こす人材の育成**をめざします。

関連する科目

- ◆ スポーツデータ科学
- ◆ 健康・医療データ科学
- ◆ 回帰と分類
- ◆ 可視化情報学
- ◆ モデリングとシミュレーション
- ◆ 機械学習1・2
- ◆ ヒューマン・コンピュータ・インターフェース
- ◆ 統計学2・3
- ◆ 時系列分析
- ◆ データ活用
- ◆ アルゴリズム
- など

卒業後の進路(例)

スポーツデータアナリスト
AI医療技術者、健康サービス事業開発者
デジタルラーニングデザイナー など!

データサイエンス学部全コース共通

「情報セキュリティマネジメントプログラム」「生成AI活用プログラム」も開講!

※コースについて：めざす進路や学びたい内容を体系的に学べるように3つのコースを配置します。コースは学修モデルであり、いずれかのコースの科目を履修すれば、まとまりある体系的な学修を進めることができます。
また、コースの科目を中心に学びつつ、別のコースに配置されている科目を履修することもできます。

※プログラムについて：昨今、世界中で注目されているキーワードに関して、関連する科目を集中的に履修することで、国家試験や検定の合格をめざします。

COLUMN 2

IT人材は不足している？

この数年で社会のデジタル化は劇的に進み、科学技術・イノベーションは世界規模で進化を続けています。その中でわが国では、IT産業の強化や企業等における高度なIT活用、デジタルビジネスの進展を担う人材である「IT人材」の養成に力をい

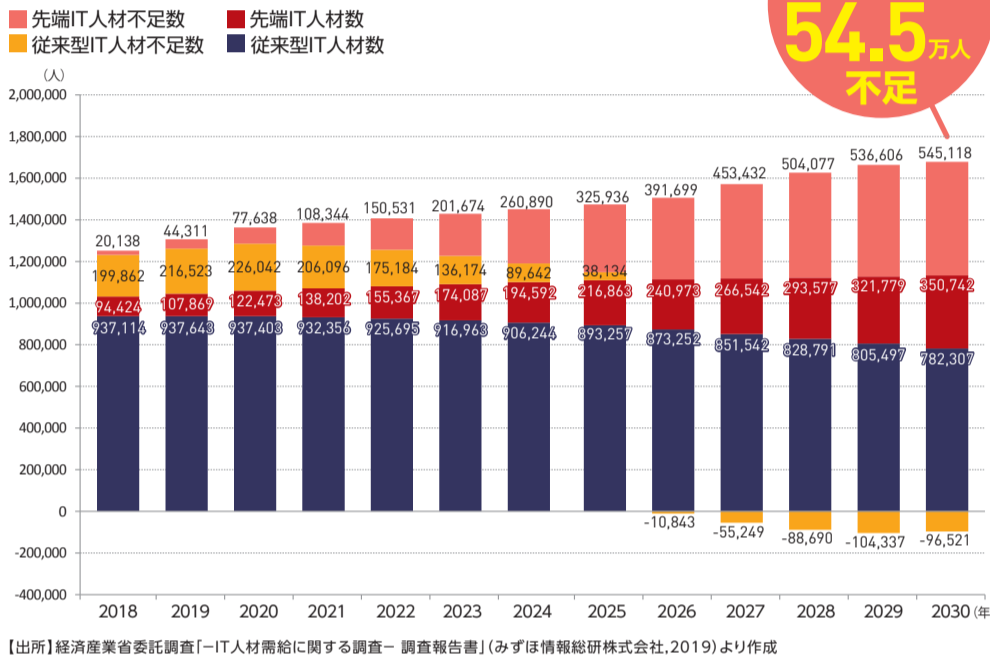
れてきたため、IT人材は一定数まで増加しました。しかし近年、AIやビッグデータ、IoTなど、第4次産業革命に対応した新しいビジネスの担い手として、データサイエンスによる社会変革を推進する人材の確保が重要となっています。付加価値の

創出や革新的な効率化の実現により、生産性の向上等に貢献できる人材が求められているのです。

みずほ情報総研の「IT人材需給に関する調査 - 調査報告書」によると、従来のIT人材（従来型IT人材）とは区別して、このような人材を「先端IT人材」とすると、先端IT人材に対する需要は今後急速に増加すると予想されています。一方で、従来から続くIT需要に関しては、中長期的には市場は縮小すると予想されており、従来型IT人材の需要は減少が見込まれます。さらに今、社会では、従来型から先端IT人材へのスキル転換の必要性が高まっているのです。

このような先端IT人材の育成には、教育界はデータサイエンスや最新のデジタル技術に関する専門教育の充実を図り、そして産業界は、必要とする先端IT人材に求める能力などを示すとともに、実践的教育を実施するための課題提供や講師派遣等を行うことが重要な役割を果たすと言われていいます。つまり、これからの教育界と産業界が連携して取り組むことが必要なのです。

2030年までのIT人材需給に関する試算



人材のスキル転換が停滞した場合、2030年には先端IT人材が54.5万人不足

【出典】みずほ情報総研(株)、
「IT人材需給に関する調査 調査報告書」(2019年3月)
内閣府「科学技術・イノベーション基本計画(概要)」
(令和3年3月26日閣議決定)

COLUMN 3

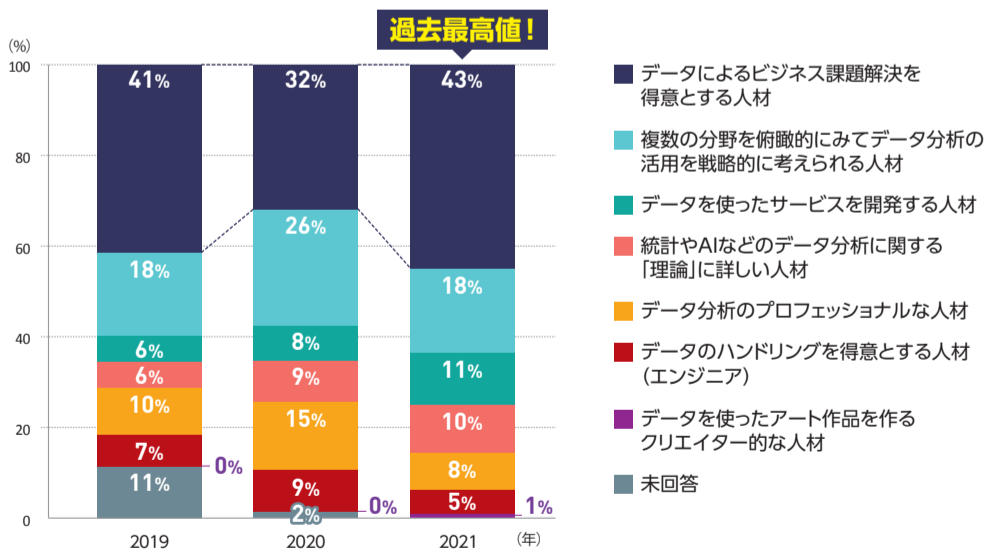
データサイエンティストは社会から求められている！



先端IT人材、とりわけデータサイエンティストに対して、企業はどのようにとらえているのでしょうか。2022年に(一社)データサイエンティスト協会調査・研究委員会が公表した「データサイエンティストの採用に関するアンケート」では、企業において、データサイエンティストの採用に対する高いニーズがある一方で、実際の採用活動はあまりうまく進んでいないことが明らかになりました。

同調査によると、今後3年間でデータサイエンティストを1名以上増員予定の企業が採用・育成したい人材像としては、「データによるビジネス課題解決を得意とする人材」が43%、「複数の分野を俯瞰的にみてデータ分析の活用を戦略的に考えられる人材」が18%、「データを使ったサービスを開発する人材」が11%を占めていました。また、「データのハンドリングを得意とする人材(エンジニア)」は減少している一方で、ビジネス課題解決人材の43%は過去最高値であり、従来型のIT人材から先端IT人材へと人材ニーズがシフトしていることがここでも確認されます。

今後3年間で採用・育成したいデータサイエンティストの人材像



今後3年間で、データサイエンティストを1人以上増員予定の企業(2019 n=88, 2020 n=66, 2021 n=83)